

Bonjour

ボンジュール!!

2014年
9月3日号

Vol.178



なぜ、円安へ動き出した？

● 長かった膠着状態

9月2日に105円台まで円安・ドル高が進みました。これは今年1月以来の水準です。米ドル・円レートは今年に入ってから、概ね101円から103円という狭い範囲での推移にとどまり、膠着状態が続いていました。何がきっかけで為替市場を動かしたのでしょうか。

● 為替市場を目覚めさせたのは…

日本の金融緩和期待

7月の鉱工業生産指数や住宅着工件数など今年4月の消費税増税後に発表された経済指標は、低調なものが多くみられます。増税による反動減が想定以上であり、新たな金融緩和期待が高まったものと考えられます。

安倍内閣改造の思惑

今回の内閣改造で塩崎政調会長代理が厚生労働相に就任する模様です。塩崎氏は年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)の運用改革に前向きな発言をしているため、国内株式や外国債券、外国株式の配分が高まると期待されています。GPIFでは巨額の資金を運用しているため、その一部が海外資産に向かうことになれば、円売りが発生するとの予想も円安要因になるとみています。

米国の堅調な景気回復

米国では、10月にも量的金融緩和が終了すると見られていることから、利上げのタイミン

グが注目されています。こうしたなか、最近発表された第2四半期のGDPなど足元の経済指標から回復度合いが強まっていることがうかがえます。そのため、利上げ観測が高まり、日米金利差拡大が予想されたことが円安・ドル高要因と見えています。

● どこまで進む？円安・ドル高

今後の為替市場が気になるところです。前述した要因に加え、日本株式の上昇もリスク回避姿勢の後退を後押しし、急激に円安が加速したものと見られます。地政学リスクなど不透明な要因はありますが、円安トレンドは年初の水準を超える可能性を感じさせる勢いがあるように思われます。

米ドル・円の為替レート推移

(日次、期間:2013年9月2日~2014年9月2日)



出所:ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。